

教 科 用 図 書 採 択 参 考 資 料 綴 り

教 科 名 社 会 (歴 史)

# 調査研究報告書

(小委員会名：歴史)

|                |  |
|----------------|--|
| 1. 調査研究の経過及び内容 | <ul style="list-style-type: none"><li>・ 6月19日(金) 第1回釧路市・釧路町合同教科用図書調査委員会<br/>(釧路教育研究センター 15:30～)<br/>7者の教科書について、調査研究の視点、手順、役割分担を決定。<br/>調査研究に当たり、「学習指導要領」「教科書編修趣意書」、「教科用図書採択参考資料」を参考資料とすることを確認し、次回日程の調整を行った。</li><li>・ 7月10日(金) 歴史小委員会(釧路教育研究センター 16:00～)<br/>調査研究した7者の内容、特色についての各委員からの報告及び委員による協議を行った。各教科書の特色、北海道の歴史・文化の掲載量と内容等、及び生徒の視点から見た使用の利便性等を協議の観点とした。</li></ul> <p>■各教科書の特色</p> <ul style="list-style-type: none"><li>①東京書籍「新しい社会 歴史」<ul style="list-style-type: none"><li>・ 各時代の特色が理解できるよう、見開き2頁(1単位時間)で内容が整理され、適切に取り扱われている。分量はバランスよく配置されている。各頁に世紀と時代区分が掲載されており、事象の時系列が分かりやすい。</li><li>・ 1単位時間の基礎事項の確認、学習課題を解決する活動を掲載し、学習のまとめを行うことができる。</li><li>・ 資料から時代の様子を読み取る学習や話し合い活動を進めるコーナーを設けるなどの学習が充実している。</li><li>・ アイヌ民族との関わりについて、和人との関わりや同化政策等の記述がされている。</li></ul></li><li>②教育出版「中学社会 歴史 未来をひらく」<ul style="list-style-type: none"><li>・ 各時代の特色が理解できるよう、見開き2頁(1単位時間)で内容が整理され、適切に取り扱われている。分量はバランスよく配置されている。</li><li>・ 1単位時間の学習内容の整理と事象の説明を課題として掲げ、主体的な学習を喚起している。</li><li>・ 小学校で学習した人物等を明確に示し、既習事項を整理している。</li><li>・ アイヌ民族との関わりについて、和人との関わりや同化政策等の記述がされている。</li></ul></li><li>③帝国書院「社会科 中学生の歴史 日本の歩みと世界の動き」<ul style="list-style-type: none"><li>・ 各時代の特色が理解できるよう、見開き2頁(1単位時間)で内容が整理され、適切に取り扱われている。分量はバランスよく配置されている。各頁に世紀と時代区分が掲載されており、事象の時系列が分かりやすい。</li><li>・ 1単位時間の学習内容の整理と事象の説明により主体的な学習を喚起している。小学校で学習した内容、地理・公民との繋がりが明記されている。</li></ul></li></ul> |
|----------------|--|

1. 調査研究の経過及び内容

- ・イラスト地図を用い、各時代の様子を想像させたり、日本と世界とのつながりを明確にしている。
- ・アイヌ民族との関わりについて、和人との関わりや暮らしぶり等の記述がされている。

④山川出版社「中学歴史 日本と世界」

- ・各時代の特色が理解できるよう、見開き2頁（1単位時間）で内容が整理され、適切に取り扱われている。分量はバランスよく配置されている。記述量が多く（文字が小さい）情報量が多い分、説明が分かりやすい。重要語句の太文字が多い。
- ・多くのページで学習内容を深める発展的課題を提示している。
- ・資料をもとにその時代を深く考察したり、ある地域の特色から広い視点をもつ学習が進められるような配慮がされている。
- ・アイヌ民族の生活や伝統・文化について触れると共に、和人との関わりや同化政策等についても記述がされている。

⑤日本文教「中学社会 歴史的分野」

- ・各時代の特色が理解できるよう、内容が整理され、適切に取り扱われている。分量はバランスよく配置されている。
- ・1単位時間の学習内容の整理と学習課題を深める活動により、主体的な学習に取り組む工夫がされている。小学校の既習事項や他領域との関連も記述されている。
- ・各時代区分の前に世界地図で日本との繋がりを明示した後、日本の歴史学習に入っており、時代背景がよく理解できる。
- ・アイヌ民族の生活や伝統・文化や現在について触れると共に、和人との関わりや北海道アイヌ協会等についても記述がされている。

⑥育鵬社「〔最新〕 新しい日本の歴史」

- ・各時代の特色が理解できるよう、見開き2頁（1単位時間）で内容が整理され、適切に取り扱われている。分量はバランスよく配置されている。その時代に活躍した女性に焦点を当てた記述が多い。
- ・1単位時間の学習内容の整理と用語の説明等の学習活動を通して、主体的に学習に取り組む工夫がされている。
- ・必要に応じ、日本と世界のできごとを対比して整理し、つながりを分かりやすくする工夫がされている。
- ・アイヌ民族の生活や交易等について記述がされている。

⑦学び舎「ともに学ぶ人間の歴史」

- ・各時代の特色が理解できるよう、見開き2頁（1単位時間）で構成されている。文章の記述は物語のように記述され、各事象の流れが分かりやすい。分量は近現代史の割合がやや多く重要語句の太文字がない。
- ・A4サイズの教科書で、図版資料が大きく見やすい。
- ・各時代の章の振り返りで、インターネットを利用した調べ方、聞き取り調査や発表する活動により思考力の育成を図ろうとしている。
- ・アイヌ民族の交易や暮らしぶり、同化政策等に記述がされている。

|                          |  |
|--------------------------|--|
| <p>2.<br/>具体的調査研究の資料</p> | <ol style="list-style-type: none"> <li>1 教科書編集趣意書</li> <li>2 採択参考資料</li> <li>3 学習指導要領解説</li> </ol>   |
| <p>3.<br/>意見等少数</p>      | <ul style="list-style-type: none"> <li>・発行者により内容が細かく記載され、中学生が理解するには難しいものがあった。</li> <li>・記述内容については、特色があり興味を引くものがあった。</li> <li>・地理的分野や公民的分野との関連が図られているものが多いが、地図帳との関連が図られるとなおよい。</li> <li>・カラーユニバーサルデザインの観点から、色覚特性がある生徒にとっても読み取りやすくなっている。</li> <li>・発行者によっては、QRコードを掲載するなど、デジタルコンテンツとのつながりが工夫されていた。</li> <li>・図表が大きく見やすいなどの工夫が見られた。</li> </ul> |

# 教科用図書採択参考資料

| 番号                                 | 発行者の番号・略称  | 使用学年・分野           | 教科書の記号・番号 | 教科書名     |
|------------------------------------|--|-------------------|-----------|----------|
| 観点                                 | 2・東書   | 第1・2・3学年<br>歴史的分野 | 歴史・705    | 新しい社会 歴史 |
| 取扱内容                               | <p>○ 歴史的分野の目標が達成できるよう、次のような学習活動が取り上げられている。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「私たちと歴史」において、小学校で学習した歴史上の人物に着目して、時代区分との関わりについて考察したり、西暦や世紀、元号についてのまとめや年表の読み取りから年代の表し方の意味や意義を理解したりする活動</li> <li>・「身近な地域の歴史」において、推移や比較などの視点に着目して、福岡や福井の歴史的な特徴を多面的・多角的に考察したり、テーマ設定などの調査方法を示した資料から地域の歴史についてまとめる方法を理解したりする活動</li> <li>・「古代までの日本」において、奈良時代では律令国家の形成に着目して、貴族と一般の人々の生活に違いが生じた理由を考察したり、単元のまとめでは「古代日本のキーパーソンは誰だろう」という主題を設けて時代の特色を理解したりする活動</li> <li>・「中世の日本」において、鎌倉時代では武家政治の成立の影響に着目して、平安時代の仏像と特徴を比較して違いを考察したり、単元のまとめでは「古代との比較から中世の特色を探ろう」という主題を設けて時代の特色を理解したりする活動</li> <li>・「近世の日本」において、織田・豊臣の統一事業に着目して、戦国時代を終わらせた最も重要な政策を考察したり、単元のまとめでは「近世で最も活躍した身分はどれだろう」という主題を設けて時代の特色を理解したりする活動</li> <li>・「近代の日本と世界」において、明治政府の諸改革の目的に着目して、政府のアイヌ民族と琉球民族への対応の相違点を考察したり、単元のまとめでは「日本と世界との結びつきを考えよう」という主題を設けて時代の特色を理解したりする活動</li> <li>・「現代の日本と世界」において、戦後の政治の展開と国民生活の変化に着目して、日本復興の象徴となる出来事を考察したり、単元のまとめでは「現代の日本を形作ったものは何だろう」という主題を設けて時代の特色を理解したりする活動</li> </ul> <p>○ 主体的・対話的で深い学びの実現に資する学習への対応については、応仁の乱の学習において、学習課題を設定し、見通しをもたせるとともに、戦いの様子を描いた複数の時代の資料を比較し、社会の変化について話し合い、考えを広げたり深めたりする学習活動が取り上げられている。</p> |                   |           |          |
| 並びに学習指導要領の総則の目標、内容及び各教科、各学年の目標、内容等 |  |                   |           |          |
| 内容の構成・分量等                          | <p>○ 内容の構成・排列については、「歴史へのとびら」において、歴史の学び方について学習した後に、時代区分毎に時代の特色や歴史の流れについて学習するなど、系統的・発展的に学習できるような工夫がなされている。</p>   |                   |           |          |
| 使用上の配慮等                            | <p>○ 江戸時代の最上徳内、近藤重蔵、間宮林蔵らの北方探検の地図を掲載して、その行程を紹介したり、「アイヌ文化とその継承」として、儀式や神話、生活の様子などの資料を掲載して、13世紀以降のアイヌ文化の成立と展開、アイヌ文化継承の動きを説明したりするなど、生徒の学習意欲を高める工夫がなされている。</p> <p>○ 「チェック」で、一単位時間の学習の終わりに基礎事項を確認する活動や、「トライ」で、要約や説明により学習課題を解決する活動を掲載するなど、主体的に学習に取り組むことができるような工夫がなされている。</p> <p>○ 教科書の使い方について説明するページを設けたり、全ての生徒が学習しやすいよう、ユニバーサルデザインフォントを使用したりするとともに、1人1台端末を活用した学習活動として、「Dマーク」(QRコード)を掲載するなど、使用上の便宜が図られている。</p>  |                   |           |          |
| その他                                | <p>※ 中学校用教科書目録（令和3年度使用文部科学省）による</p> <p>○ 学習者用デジタル教科書の発行が予定されている。</p>   |                   |           |          |

# 教科用図書採択参考資料

| 番号<br>観点  | 発行者の番号・略称<br>17・教出   | 使用学年・分野<br>第1・2・3学年<br>歴史分野 | 教科書の記号・番号<br>歴史・706 | 教科書名<br>中学社会 歴史<br>未来をひらく |
|---|--|-----------------------------|---------------------|---------------------------|
| 取<br>扱<br>内<br>容<br><br>学習指導要領の総則<br>及び各教科、各学年<br>の目標、内容等 | <p>○歴史的分野の目標が達成できるよう、次のような学習活動が取り上げられている。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「私たちと歴史」において、小学校で学習した歴史上の人物や文化遺産に着目して、時代区分との関わりについて考察したり、西暦や世紀、時代区分、年号についてのまとめや年表から年代の表し方の意味や意義を理解する活動。</li> <li>・「身近な地域の歴史」において、推移や比較などの視点に着目して、新潟市を例に地域に関わりのある人物や文化財、行事などの項目の調査方法や発表方法を示した地域調査の手引きから地域の歴史についてまとめる方法を理解する活動。</li> <li>・「原始・古代の日本と世界」において、奈良時代では中央集権国家の仕組みに着目して、中央と地方の関係やそれぞれの暮らしを考察したり、単元のまとめでは「日本という国がどのように成立し、他国との関わりの中で、どのように発展していったか」という主題を設けて時代の特色を理解する活動。</li> <li>・「中世の日本と世界」において、ユーラシアの変化や日本との交流、ムスリム商人の役割を話し合ったり、鎌倉幕府と室町幕府の仕組みを比べ共通点やそれに伴う社会の変化を考察したり、単元のまとめでは「古代と比較し、中世はどのような時代だったか」という主題を設けて時代の特色を理解する活動。</li> <li>・「近世の日本と世界」において、ヨーロッパ人のアジアへの進出による影響や江戸幕府の政治が中世の政治と異なる点を考察したり、単元のまとめでは「江戸時代と前の時代を比較して、近世の特色を説明してみよう」という主題を設けて時代の特色を理解する活動。</li> <li>・「近代の日本と世界」において、日本の近代国家の建設に向けて、明治政府がどのような政策を行ったのか、またそれに伴う生活や文化への影響を話し合ったり、単元のまとめでは「日本が近代化に成功した理由について考えてみよう」という主題を設けて時代の特色を理解する活動。</li> <li>・「現代の日本と世界」において、戦後の日本はどのような国を目指し、またそれに向けてどのような取り組みをして国際社会に復帰したのか考察したり、単元のまとめでは「日本が国際的地位を向上させた要因を説明しよう」という主題を設けて時代の特色を理解する活動。</li> </ul> <p>○主体的・対話的で深い学びの実現に資する学習への対応については、本文の学習の流れに即して歴史資料の読み解きを示唆する『読み解こう』や『Q』などの問いを設け、時代の特色を考察する学習活動を重視している。写真・絵・地図・グラフ・文書などの多様な資料について、具体的な手がかりや問いかけをもとに取り組む中で、資料を活用する技能が身につくように工夫されている。</p> |                             |                     |                           |
| 排<br>列<br>・<br>内<br>容<br>の<br>構<br>成<br>・<br>分<br>量<br>等  | <p>○内容の構成・排列については、部の始めの「学習を始めよう」において時代のイメージを掴ませた後に節ごとに問いがあり、その問いを本文において基礎・基本となる事項と歴史の展開を学習し、章の終わりにまとめとして答えを出す。「学習のまとめと表現」で章ごとに学習事項を整理・確認するなど、系統的・発展的に学習できるような工夫がなされている。</p> <p>○内容の分量については「歴史のとらえ方・調べ方」は15ページ、「原始・古代の日本」は42ページ、「中世の日本」は36ページ、「近世の日本」は50ページ、「近代の日本と世界」は108ページ、「現代の日本と世界」は36ページとなっており、総ページは287ページで前回よりも約10%増となっている。</p>  |                             |                     |                           |
| 使<br>用<br>上<br>の<br>配<br>慮<br>等                           | <p>○江戸時代に函館に来航したペリー艦隊の航路や函館の来航記念碑の写真に掲載して、函館寄港の際のエピソードを紹介したり、アイヌの人たちの言葉や文化について、神話の資料を掲載して、現在までアイヌ文化を伝えてきた人々の努力を説明したりするなど、生徒の学習意欲を高める工夫がなされている。</p> <p>○「確認」で、一単位時間の学習内容を振り返って整理する活動や、「表現」で、学習内容を図に表したり、自分の言葉で説明したりする活動を掲載するなど、主体的に学習に取り組むことができるような工夫がなされている。</p> <p>○教科書の使い方について説明するページを設けたり、全ての生徒が学習しやすいよう、ユニバーサルデザインフォントを使用したりするとともに、1人1台端末を活用した学習活動として、「まなびリンク」(QRコード)を掲載するなど、使用上の便宜が図られている。</p>  |                             |                     |                           |
| そ<br>の<br>他   | <p>※ 中学校用教科書目録（令和3年度使用文部科学省）による</p> <p>○ 学習者用デジタル教科書の発行が予定されている。</p>   |                             |                     |                           |

# 教科用図書採択参考資料

| 番号  | 発行者の番号・略称   | 使用学年・分野           | 教科書の記号・番号 | 教科書名                      |
|---|---|-------------------|-----------|---------------------------|
| 観点  | 46・帝国   | 第1・2・3学年<br>歴史的分野 | 歴史・707    | 社会科 中学生の歴史<br>日本の歩みと世界の動き |
| 取<br>扱<br>内<br>容<br><br>学習指導要領の<br>総則<br>及び各教科、各<br>学年の<br>目標、<br>内容等 | <p>○歴史的分野の目標が達成できるよう、次のような学習活動が取り上げられている。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「歴史のとらえ方と調べ方」において、小学校で学習した歴史上の人物や出来事に着目して、時代区分との関わりについて考察したり、情報の集め方などについて示した「技能をみがく」のコラムから地域の歴史についてまとめ方や発表の方法を理解する活動。</li> <li>・「古代国家の成立と東アジア」において、飛鳥時代、奈良時代に行われた政策を学び、日本の古代国家が目指した国とはどのようなものであったか考察したり、単元のまとめでは「古代の国が成立するために重要なことは何か」という主題を設けて時代の特色を理解する活動。</li> <li>・「武家政権の成長と東アジア」において、武士がなぜ台頭し政治の実権を握ることができたのかを考察したり、単元のまとめでは「武士と庶民がそれぞれの結び付きを強めていった目的は何か」という主題を設けて時代の特色を理解する活動。</li> <li>・「武家政権の展開と世界の動き」において、社会が安定した結果、人々の生活や産業はどのように変化したのか説明したり、単元のまとめでは「全国を統一する安定した政権が成立させたものは何か」という主題を設けて時代の特色を理解する活動。</li> <li>・「近代国家の歩みと国際社会」において、日本の近代国家の建設に向けて、明治政府がどのような政策を行ったのか、欧米諸国の近代化の推移を踏まえてまとめたり、単元のまとめでは「近代化による、政治や社会の大きな変化とは何か」という主題を設けて時代の特色を理解する活動。</li> <li>・「現代に続く日本と世界」において、敗戦後の日本は国際社会の中での立場を政治的・経済的にどのように変えていったのか考察したり、単元のまとめでは「現代の日本社会を形づくる画期となった出来事は何か」という主題を設けて時代の特色を理解する活動。</li> </ul> <p>○主体的・対話的で深い学びの実現に資する学習への対応については、特設ページである「多面的・多角的に考えてみよう」や「多面的・多角的に構想する 未来に向けて」を用いて、当時の課題に対して当時のさまざまな人の立場から意見を述べ合うことにより、話が深まり物事をあらゆる角度から見る力がつくようになっている。</p> |                   |           |                           |
| 排内<br>内容<br>の<br>量<br>構<br>成<br>等                                     | <p>○内容の構成・排列については、部の始めに「タイムトラベル」を設け時代観を掴ませる。節ごとに問いがあり、その問いを本文において基礎・基本となる事項と歴史の展開を学習し、章の終わりにまとめとして答えを出す。「学習をふりかえる」で部ごとに学習事項を整理・確認するなど、系統的・発展的に学習できるような工夫がなされている。</p> <p>○文化史や社会史、地域史の充実により、互いの文化を尊重し合う態度を涵養する特色がある。</p> <p>○内容の分量については、「歴史のとらえ方」は14ページ、「古代までの日本」は44ページ、「中世の日本」は36ページ、「近世の日本」は54ページ、「近代の日本と世界」は108ページ、「現代の日本と世界」は30ページで、総ページ数は286ページとなっており、前回よりも約9%増となっている。</p>  |                   |           |                           |
| 使<br>用<br>上<br>の<br>配<br>慮<br>等                                       | <p>○明治時代の札幌の地図や屯田兵村の写真、北海道の開拓と産業の発展に係る資料を掲載して、北海道や札幌市の近代化の過程を説明したり、アイヌの人たちの生活や文化について、神話や衣食住などの資料を掲載して、独自の文化を築いたことについて説明したりするなど、生徒の学習意欲を高める工夫がなされている。</p> <p>○「確認しよう」で、一単位時間の学習内容を振り返り、大切な事項を確認する活動や、「説明しよう」で、学習内容を自分の言葉で説明する活動を掲載するなど、主体的に学習に取り組むことができるような工夫がなされている。</p> <p>○教科書の使い方について説明するページを設けたり、全ての生徒が学習しやすいよう、ユニバーサルデザインフォントを使用したりするとともに、1人1台端末を活用した学習活動として、二次元コード(QRコード)を掲載するなど、使用上の便宜が図られている。</p>   |                   |           |                           |
| そ<br>の<br>他   | <p>※ 中学校用教科書目録（令和3年度使用文部科学省）による</p> <p>○ 学習者用デジタル教科書の発行が予定されている。</p>  |                   |           |                           |

# 教科用図書採択参考資料

| 番号                                | 発行者の番号・略称  | 使用学年・分野           | 教科書の記号・番号 | 教科書名       |
|-----------------------------------|--|-------------------|-----------|------------|
| 観点                                | 81・山川  | 第1・2・3学年<br>歴史的分野 | 歴史・708    | 中学歴史 日本と世界 |
| 取<br>扱<br>内<br>容                  | <p>○歴史的分野の目標が達成できるよう、次のような学習活動が取り入れられている。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「私たちと歴史」において、小学校で学習した歴史を大きく変えた人物に着目して、時代区分との関わりについて考察したり、西暦や世紀、時代区分、年号についてのまとめや年表から年代の表し方の意味や意義を理解したりする活動</li> <li>・「身近な地域の歴史」において、推移や比較などの視点に着目して、平泉や金沢の歴史的な特徴を多面的・多角的に考察したり、調査方法やレポートの作成方法を示した資料から地域の歴史についてまとめる方法を理解したりする活動</li> <li>・「古代までの日本」において、平安時代では東アジアとの接触や交流に着目して文化の国風かを考察したり、単元のまとめでは「平安時代になると、社会はどのように変化したか」という主題を設けて時代の特色を理解したりする活動</li> <li>・「中世の日本」において、室町時代では武家政治の展開に着目して、幕府のしくみや守護の役割の変化を考察したり、単元のまとめでは、「宗教が大きな影響力をもった理由を考えてみよう」という主題を設けて時代の特色を理解したりする活動</li> <li>・「近世の日本」において、江戸時代では産業や交通の発達に着目して、生産技術の向上や三都の発展を考察したり、単元のまとめでは「近世の日本の経済や社会はどのように変化したか」という主題を設けて時代の特色を理解したりする活動</li> <li>・「近代の日本と世界」において、明治政府の外交の展開に着目して、国際関係の変化を考察したり、単元のまとめでは「明治政府はどのように近代国家をつくらうとしていたのだろうか」という主題を設けて時代の特色を理解したりする活動</li> <li>・「現代の日本と世界」において、日本国憲法の制定やそれにとりもなう法律の改正に着目して、日本の民主化の進展を考察したり、単元のまとめでは「冷戦下の世界で起こった戦争の特徴は何だろうか」という主題を設けて時代の特色を理解したりする活動</li> </ul> <p>○主体的・対話的で深い学びの実現に資する学習への対応については、日露戦争と東アジアの学習において、学習課題を設定し、見通しをもたせるとともに、風刺画や地図などの様々な資料を基に日露戦争に至る経過とその戦争が与えた影響について話し合い、考えを広げたり深めたりする学習活動が取り上げられている。</p> |                   |           |            |
| 学習指導要領の総則<br>及び各教科、各学年<br>の目標、内容等 |  |                   |           |            |
| 内容の構成・分量等                         | <p>○内容の構成・排列については、「歴史との対話」において、歴史の学び方について学習した後に、時代区分ごとに時代の特色や歴史の流れについて学習するなど、系統的・発展的に学習できるような工夫がなされている。</p> <p>○内容の分量は、「歴史との対話」は22ページ、「近世までの日本とアジア」は132ページ、「近現代の日本と世界」は125ページ、「その他」は9ページとなっており、総ページ数は288ページである。また、アイヌの人たちの歴史・文化等を取り上げているページ数は8ページであった。</p>   |                   |           |            |
| 使用上の配慮等                           | <p>○明治時代の札幌の地図やクラークの資料を掲載し、開拓の歴史などから札幌について考える課題を位置付けたり、アイヌの人たちの歴史と文化について、アイヌ民族の主張やイオマンテの様子を描いた絵を掲載して、特徴を示したりするなど、生徒の学習意欲を高める工夫がなされている。</p> <p>○「ステップアップ」で、1単位時間の終わりに新たな課題を追求する活動や、「歴史を考えよう」で、学んだことをもとに考察する活動を掲載するなど、主体的に学習に取り組むことができるような工夫がなされている。</p> <p>○教科書の使い方について説明するページを設けたり、全ての生徒が学習しやすいよう、カラーユニバーサルデザインを取り入れたりするとともに、一人1台端末を活用した学習活動として、二次元コード（QRコード）を掲載するなど、使用上の便宜が図られている。</p>  |                   |           |            |
| その他                               | <p>※ 中学校用教科書目録（令和3年度使用文部科学省）による</p> <p>○ 学習者用デジタル教科書の発行が予定されている。</p>   |                   |           |            |

# 教科用図書採択参考資料

| 番号                                   | 発行者の番号・略称   | 使用学年・分野  | 教科書の記号・番号 | 教科書名       |
|--------------------------------------|---|--|-----------|------------|
| 観点                                   | 116・日文  | 第1・2・3学年<br>歴史的分野  | 歴史・709    | 中学社会 歴史的分野 |
| 取<br>扱<br>内<br>容                     | 学習指導要領の総則<br>及び各教科、各学年<br>の目標、内容等   | <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 歴史的分野の目標が達成できるよう、次のような学習活動が取り上げられている。</li> <li>・「私たちと歴史」において、小学校で学習した歴史を大きく変えた人物に着目して、時代区分との関わりについて考察したり、西暦や世紀、年号、時代区分を示した年表から年代の表し方の意味や意義を理解したりする活動</li> <li>・「身近な地域の歴史」において、推移や比較などの視点に着目して、奈良や大阪の歴史的な特徴を多面的・多角的に考察したり、歴史の調べ方について示した「スキルUP」のコラムから地域の歴史についてまとめる方法を理解したりする活動</li> <li>・「古代までの日本」において、奈良時代では古事記や日本書紀に着目して、当時の人々の信仰やものの見方を考察したり、単元のまとめでは「文字の変化に着目して、古代までの特色にせまろう」という主題を設けて時代の特色を理解したりする活動</li> <li>・「中世の日本」において、室町時代では産業が発達していく過程に着目して、民衆の成長を背景とした文化の高まりを考察したり、単元のまとめでは「法に着目して、中世の特色にせまろう」という主題を設けて時代の特色を理解したりする活動</li> <li>・「近世の日本」において、江戸幕府の政策や社会の変化に着目して、幕府の改革が成功しなかった理由を考察したり、単元のまとめでは「幕府の収入に着目して、近世の特色にせまろう」という主題を設けて時代の特色を理解したりする活動</li> <li>・「近代の日本と世界」において、明治政府の富国強兵政策の目的に着目して、近代国家建設を急いだ理由を考察したり、単元のまとめでは「明治政府の政策から、近代の特色にせまろう」という主題を設けて時代の特色を理解したりする活動</li> <li>・「現代の日本と世界」において、経済大国となった日本と諸外国との関係に着目して、世界に与える影響を考察したり、単元のまとめでは「復興と成長の源に着目して、現代の特色にせまろう」という主題を設けて時代の特色を理解したりする活動</li> <li>○ 主体的・対話的で深い学びの実現に資する学習への対応については、承久の乱の学習において、学習課題を設定し、見通しをもたせるとともに、複数の資料から読み取ったことをもとに、古代から中世への時代の変化について話し合い、考えを広げたり深めたりする学習活動が取り上げられている。</li> </ul> |           |            |
| 排<br>列<br>内<br>容<br>の<br>構<br>成<br>等 | ○ 内容の構成・排列については、「私たちと歴史」において、歴史の学び方について学習した後に、時代区分毎に時代の特色や歴史の流れについて学習するなど、系統的・発展的に学習できるような工夫がなされている。  |  |           |            |
| 使<br>用<br>上<br>の<br>配<br>慮<br>等      | <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 北方領土に関する条約や北方領土付近の国境の変化の地図、写真などの資料を掲載して、第二次世界大戦後の日本の取組を説明したり、アイヌ文化について、儀式や神話、国立アイヌ民族博物館などの資料を掲載して、アイヌ文化の伝承について説明したりするなど、生徒の学習意欲を高める工夫がなされている。</li> <li>○ 「確認」で、一単位時間の学習の理解を確認する活動や、「深めよう」で、学習課題の理解を深める活動を掲載するなど、主体的に学習に取り組むことができるような工夫がなされている。</li> <li>○ 教科書の使い方について説明するページを設けたり、全ての生徒が学習しやすいよう、ユニバーサルデザインフォントを使用したりするとともに、1人1台端末を活用した学習活動として、「デジタルマーク」(QRコード)を掲載するなど、使用上の便宜が図られている。</li> </ul> |  |           |            |
| そ<br>の<br>他                          | <ul style="list-style-type: none"> <li>※ 中学校用教科書目録（令和3年度使用文部科学省）による</li> <li>○ 学習者用デジタル教科書の発行が予定されている。</li> </ul>   |  |           |            |

# 教科用図書採択参考資料

| 番号  | 発行者の番号・略称  | 使用学年・分野           | 教科書の記号・番号 | 教科書名             |
|---|--|-------------------|-----------|------------------|
| 観点  | 227・育鵬社  | 第1・2・3学年<br>歴史的分野 | 歴史・735    | 中学社会<br>新しい日本の歴史 |
| 取<br>扱<br>内<br>容<br><br>学習指導要領の総則<br>及び各教科、各学年<br>の目標、内容等 | <p>○歴史的分野の目標が達成できるよう、次のような学習活動が取り上げられている。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「歴史の流れと先人の活躍」において、小学校で学んだ人物や出来事に着目して、歴史の流れを確認したり、歴史人物Q&amp;Aを作成し時代ごとに並べると同時に、西暦や世紀、年代の表し方を学習する活動。</li> <li>・「原始と古代の日本」において、貴族がどのようにして誕生し、どのようにして力を伸ばしていったのか考察したり、単元のまとめでは「古代の日本と中国の関係がどう変化したのか」という主題を設けて時代の特色を理解する活動。</li> <li>・「中世の日本」において、鎌倉時代では武士がなぜ台頭し政治の実権を握ることができたのかを考察し、古代の律令政治との違いをまとめたり、単元のまとめでは「中世の人々の暮らしや社会がどうなったのか」という主題を設けて時代の特色を理解する活動。</li> <li>・「近世の日本」において、江戸幕府の諸政策の目的に着目して、外国との関係はどのように変化したのか、「歴史のターニングポイント3」や関連する資料から読み取ったり、単元のまとめでは「江戸時代の社会はどんな社会だったのか」という主題を設けて時代の特色を理解する活動。</li> <li>・「近代の日本と世界」において、明治政府の政策が政策前と比べて社会にどのような影響を与えたのか考察したり、単元のまとめでは「この時代のできごとで最も重要と思うものは何か」という主題を設けて、時代の特色を理解する活動。</li> <li>・「現代の日本と世界」において、第二次世界大戦後の諸改革に着目して、日本の民主化と再建の過程を考察したり、単元のまとめでは「これからの日本はどんな社会になり何が問題になるのか」という主題を設けて時代の特色を理解する活動。</li> </ul> <p>○主体的・対話的で深い学びの実現に資する学習への対応については、構成が「つかむ→調べる→まとめる→表現する」という問題解決型学習の教材配列になっており、知識・思考・判断・表現の一体化を図られている。また歴史のターニングポイント①～⑥では各時代を代表する大きな出来事について、様々な資料を基に深く掘り下げて考え意見交流をすることによって、より深い学びにつながるような教科書となっている。</p> |                   |           |                  |
| 排<br>内<br>列<br>容<br>・<br>分<br>の<br>量<br>構<br>成<br>・       | <p>○内容の構成・排列については、章の始めに「鳥の目で見ると時代」を設け時代を大観させ、「虫の目で見ると時代」において時代の重要人物や事柄、暮らしの様子を前の時代と比較させながら掴ませる。本文において基礎・基本となる事項と歴史の展開を学習し、章の終わりの「学習のまとめ」で章ごとに学習事項を整理・確認するなど、系統的・発展的に学習できるような工夫がなされている。</p> <p>○内容の分量については「歴史の流れと先人の活躍」は11ページ、「原始と古代の日本」は50ページ、「中世の日本」は34ページ、「近世の日本」は52ページ、「近代の日本と世界」は102ページ、「現代の日本と世界」は32ページであり、総ページ数は281ページで、前回より約1%増となっている。</p>  |                   |           |                  |
| 使<br>用<br>上<br>の<br>配<br>慮<br>等                           | <p>○「お雇い外国人」の紹介として、北海道に縁のあるウィリアム・スミス・クラークを取り上げ、北海道の開拓にまつわるエピソードを示したり、アイヌの人たちが行っていた交易に関する資料を掲載して、アイヌの人たちと周辺諸国や地域との関係を示したりするなど、生徒の学習意欲を高める工夫がなされている。</p> <p>○「歴史ビュー」で、本文の内容について多角的な視点から考察する活動や、「歴史のターニングポイント」で、各時代の出来事について意見を交換する活動を掲載するなど、主体的に学習に取り組むことができるような工夫がなされている。</p> <p>○教科書の使い方について説明するページを設けたり、全ての生徒が学習しやすいよう、カラーバリアフリーに配慮したりするとともに、1人1台端末を活用した学習活動として、プレゼンテーション用のソフトを活用した発表方法を掲載するなど、使用上の便宜が図られている。</p>  |                   |           |                  |
| そ<br>の<br>他   |  |                   |           |                  |

# 教科用図書採択参考資料

| 番号   | 発行者の番号・略称  | 使用学年・分野           | 教科書の記号・番号 | 教科書名       |
|--|--|-------------------|-----------|------------|
| 観点   | 229・学び舎  | 第1・2・3学年<br>歴史的分野 | 歴史・711    | ともに学ぶ人間の歴史 |
| 取<br>扱<br>内<br>容   | <p>○歴史的分野の目標が達成できるよう、次のような学習活動が取り上げられている。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「私たちと歴史」において、歴史の流れを示した表と小学校で学んだ人物や出来事に着目して、時代区分との係わりについて考察したり、西暦や元号、世紀、時代区分などの資料から年代の表し方の意味や意義を理解したりする活動</li> <li>・「身近な地域の歴史」において、推移や比較などの視点に着目して、東京の歴史的な特徴を多面的・多角的に考察したり、調査や発表の方法を示した資料から地域の歴史についてまとめる方法を理解したりする活動</li> <li>・「古代までの日本」において、弥生時代では稲作の広まりに着目して、暮らしや社会の変化を考察したり、単元のまとめでは「人々の生活や社会の様子、制度や文化はどう変化したか」という主題を設けて時代の特色を理解したりする活動</li> <li>・「中世の日本」において、室町時代では諸産業の発達に着目して、都市や農村の自治的な仕組みの成立を考察したり、単元のまとめでは「中世はどのような人々が力をもった時代だったか」という主題を設けて時代の特色を理解したりする活動</li> <li>・「近世の日本」において、江戸幕府の政策や社会の変化に着目して、百姓一揆が起こった原因を考察したり、単元のまとめでは「中世との比較から近世・江戸時代の特色を考えよう」という主題を設けて時代の特色を理解したりする活動</li> <li>・「近世の日本と世界」において、議会政治の始まりに着目して、自由民権運動の変化を考察したり、単元のまとめでは「近代はどのような特色をもった時代だったか」という主題を設けて時代の特色を理解したりする活動</li> <li>・「現代の日本と世界」において、サンフランシスコ講和会議の参加国に着目して、第二次世界大戦後の日本の国交の変化を考察したり、単元のまとめでは「時代の変化を絵に表してみよう」という主題を設けて時代の特色を理解したりする活動</li> </ul> <p>○主体的・対話的で深い学びの実現に資する学習への対応については、近世の統一事業の学習において、学習課題を設定し、見通しをもたせるとともに、織田信長、豊臣秀吉、徳川家康が実施した政策と人々の生活への影響について話し合い、考えを広げたり深めたりする学習活動が取り上げられている。</p> |                   |           |            |
| 排<br>列<br>・<br>内<br>容<br>の<br>構<br>成<br>・<br>分<br>量<br>等 | <p>○内容の構成・排列については、「歴史と出会う」において、歴史の学び方について学習した後に、時代区分ごとに時代の特色や歴史の流れについて学習するなど、系統的・発展的に学習できるような工夫がなされている。</p> <p>○内容の分量については、「歴史との対話」が8ページ、「近世までの日本とアジア」は124ページ、「近現代の日本と世界」は146ページ、その他が21ページとなっており総ページは299ページで、近現代の割合が全体の49%と全体のおよそ半分を占めている。</p>   |                   |           |            |
| 等<br>使<br>用<br>上<br>の<br>配<br>慮                          | <p>○領土の画定に関する学習において、開拓使の設置や北海道への移住奨励に関する資料を掲載して、明治時代の北海道の開拓の進展について説明したり、江戸時代にアイヌの人々が採集した昆布の行方を課題として提示し、近隣諸国との交易について紹介したりするなど、生徒の学習意欲を高める工夫がなされている。</p> <p>○「フォーカス」で、歴史の舞台に焦点を当てて知識を深める活動や、「歴史を体験する」で、学習内容にかかわる体験活動を掲載するなど、主体的に学習に取り組むことができるような工夫がなされている</p> <p>○教科書の使い方について説明するページを設けたり、すべての生徒が学習しやすいよう、カラーユニバーサルデザインに配慮したりするとともに、1人1台端末を活用した学習活動として、ICTを活用した資料の検索方法を掲載するなど、使用上の便宜が図られている。</p>   |                   |           |            |
| そ<br>の<br>他  |  |                   |           |            |